

くまもと

408号

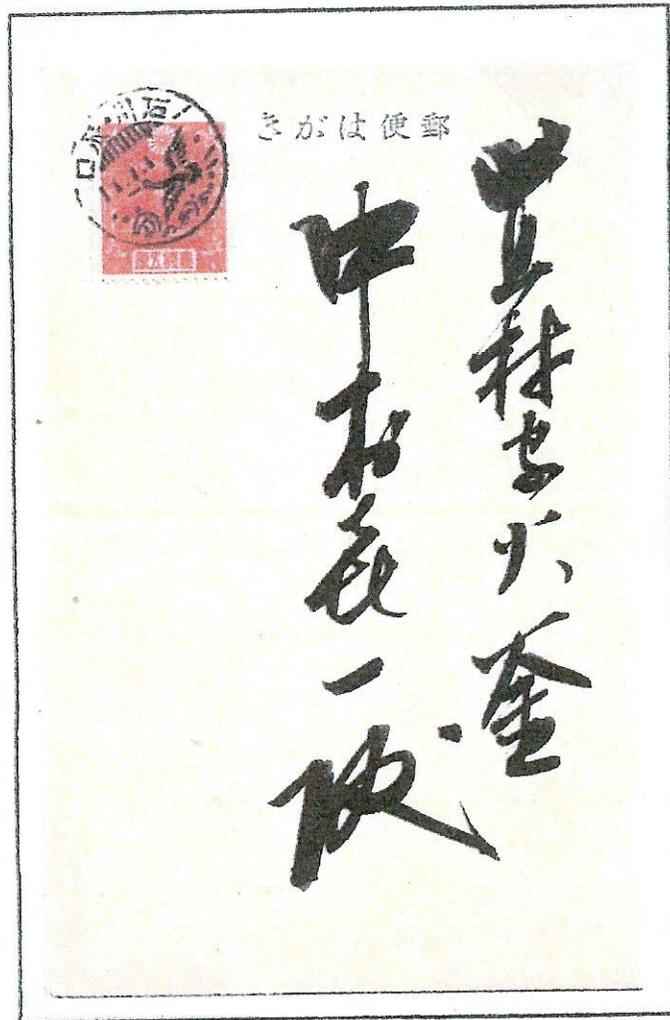
日本郵趣協会
熊本支部会報
2025.12

年賀切手

昭和11年用

富士山

1935(昭和10)年12月1日発行



証示印 石川・辰口 11年1月1日

年賀状は古くは平安時代から貴族が新年の挨拶を手紙で交わしたことが始まりです。その後、明治時代に郵便事業が始まり、一般市民も盛んに年賀状を送るようになりました。日本では 1899 年から年賀状を元旦に配達する年賀郵便特別取扱が始まり、官製はがきや私製はがき(1900 年以降)が使われていたが、年賀状に使用するための切手や葉書を発行することはなかった。

昭和になり、年賀状の取り扱いが増大したため、更に私製年賀状の利用が大半であったため、利用者へのサービスとして年賀切手を発行することになった。可能な限り早く差し出してもらうことも意図していた。

最初の年賀切手は昭和 11 年年賀用切手で 1935 年 12 月 1 日に発行された。発行枚数は 3 億枚以上であった。さらに翌年も発行されたが、1937 年の年賀切手は同時に発生した日中戦争がきっかけとなり自粛ムードにて年賀切手は以後打ち止めとなる。戦後になり年賀切手が発行されたのは昭和 24 年用年賀切手で 1948 年 12 月 13 日に発行された。以後、今に至るまで年賀切手は継続しながら発行されている。

2014 年以降より海外宛の差額用 18 円海外グリーティング切手も発売されている。

年賀切手

昭和11年用



富士山

昭和12年用



二見ヶ浦

昭和13年用



しめ飾り

昭和24年用



羽根つき

昭和25年用



応挙のトラ

昭和26年用



少女とウサギ

昭和27年用



翁の面

昭和28年用



三番叟

昭和29年用



三春駒

昭和30年用



加賀起き上がり